

県文連ふくおか

題字／貫 正義

令和5年9月

73号



福岡県文化団体連合会

表紙の光景

福岡産 懐メロ

「丘を越えて行こよ 真澄の空は ほんがらかに晴れて」
藤山一郎の明るい歌声が日本人の心をとらえた『丘を越えて』。古賀政男が、青春の日のキャンプの思い出を曲にし、島田芳文が軽快な詩を添えた。古賀は大川市、島田は豊前市の出身。
90年以上前の、昭和6年の発表だが、今なお広い世代に愛唱される名曲は、福岡コンビが生んだ。
県文連の令和5年度交流会の開幕を飾った福岡マンドリンオーケストラは『丘を越えて』など懐メロを力演。会場をしみみりさせた。
続くカラオケタイムも、懐メロオンパレード。トップを切った貰会长のオハコ『古城』も福岡にゆかりの曲。三橋美智也の美声で空前のヒットを記録したが、作曲の細川潤一が、『久留米音頭』の作者でもあることは意外に知られていない。久留米市城島の出身。
(写真は玉城勝則)

もくじ

ポストコロナの文化を模索

- 創立30周年を越えて新体制で前進 3
- 令和5年度執行部決まる
賛助会員に日経大、九産大、Q T n e tも
- 県文連令和5年度定例理事会 4
- 創立30周年経て踏み出す一歩
- 令和5年度県文連交流会 5
- 和と力 壮年期迎え新たな挑戦へ
- 第31回ふくおか県民文化祭2023 6
- 開催テーマ
「文化の継承と心揺さぶる感動をあなたへ」
- トップ切って県展開催 7
- 芸術体験講座
- 谷川佳枝子さんが「筑前五女」講義 8
- 県民文化大学・ふるさと文化講座 折り返しへ
- 県民文化大学特別講座、5年ぶり開講 9
- 地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会
ふくおかNPOセンター代表、古賀桃子氏講演
- 俳句 10
- 短歌 11
- 末永の森コンサート20周年 12
- 来年2月、小泉監督指揮、九響フルオーケストラで
- 『ふるさとの音楽史散歩』復刊 13
- 福岡労音OBが48年ぶり
- 福岡文化連盟青年部、舞台「金印」 14
- 酒席から生まれた若手のコラボ、12月に公演
- 快調！ 天神文化塾 スタート1年半 15
- 太宰府、時の記念日の行事 今年も盛況
- 飯野寅吉翁に会ってきました 16
- 舞鶴復興の恩人 直方出身の熱血漢
- 野見山暁治さん「蘇った光の中で」 17
- 93歳で白内障手術、感動の絵贈る
福岡マンドリンオーケストラ
- 令和5年度九州・沖縄文化団体連絡会議 18
- 7月27日、28日 4年ぶりに長崎で開催
- 吉塚だより 19
- 「フィルムは生きているか？」

創立30周年を越えて新体制で前進 令和5年度執行部決まる

県文連執行体制 (令和5年度)

役 職	氏 名
名誉会長	はつ 服 部 誠 太 郎
会 長	ぬき 貫 正 義
理 事 長	う だ が わ 川 の り 宣 人
副 会 長	た 中 ま 正 直
〃	い 石 川 純 一
〃	こ 小 林 文 子
副理事長	は 林 田 ス マ
専務理事	え 江 崎 雅 彦
常任理事	きた 北 里 晋 子
〃	い 井 佐 慶 子
〃	た 田 中 茂 雄
〃	の 能 間 瀧 次
〃	う 内 野 博 夫
〃	きの 木 下 修 二
〃	おお 大 分 哲 照
〃	も り 森 田 喜 富
〃	か き 笠 井 栄 俊
〃	お 小 田 幸 久
〃	た 田 島 安 江
〃	か た 片 山 健
〃	か 梶 島 禪 徹
〃	た か 高 松 大 輔
〃	こ 古 賀 透
監 事	た か 高 瀬 昭 登
〃	た 米 村 旭 翔
〃	し 市 村 智 子
〃	まつ 松 崎 栄 一
参 与	い 井 原 絹 江
〃	や ま 山 村 勇 子
調 査 役	た け 竹 川 克 幸
顧 問	まつ 松 尾 新 吾
〃	こ れ 是 澤 清 一
〃	な が 長 澤 幸 司
〃	か 河 村 哲 夫
〃	い 井 生 定 巳
〃	おお 大 野 美 保 子

※太字は新任。



市村 智子 さん



小林 文子 さん

小林文子副会長、市村智子監事 常任理事4名が交代

役員交代

令和5年度の県文化団体連合会の執行体制が決まりました。7月3日、博多サンヒルズホテルで開いた定例理事会で、副会長3人のうち1氏、監事4人のうち1氏、常任理事16人のうち4氏の交代が承認され、それぞれ新任者が紹介されました。副会長だった徳永吉之 県人づくり・県民生活部

長が3月末日退任したのに伴い、後任の小林文子さんが副会長に就任しました。同じく、県文化振興課長が松尾英輝さんから市村智子さんに代わったのに伴い、市村さんが行政担当監事に就任しました。常任理事では、地域別団体の4ブロックで交代が協議され、次の通り新任者4氏が決まりました。▽福岡ⅡブロックⅡ田中 茂雄糸島市文化協会会

長（前任者は石橋豊子・前糸島市文化協会会長）▽南筑後ブロックⅡ木下 修二大川文化協会会長（前任者は吉岡幸夫八女市文化連盟連合会会長）▽筑豊ブロックⅡ大分哲 照飯塚文化連盟会長（前任者は紙野美寿江・前飯塚文化連盟会長）▽京築ブロックⅡ森田喜 富荏田町文化協会会長（前任者は岡田猛彦築上町文化協会会長）



森田 喜富 さん



大分 哲照 さん



木下 修二 さん



田中 茂雄 さん

令和5年度定例理事会

創立30周年経て踏み出す 賛助会員に日経大、九産大も



定例理事会の様様

県吹奏楽連盟が退会

令和5年度の県文連定例理事会は7月3日、博多サンヒルズホテル瑞雲の間に理事58人が出席して開かれ、創立30周年後の第一歩を踏み出す執行体制と事業計画を決めた。第1号議案は会員の異動。創立以来の加盟団体である、県吹奏楽連盟

が6月に「参加団体間の調整が困難」などの理由で退会を申請していたのを承認。これで分野別の加盟団体は1減で25団体になった。

また和楽団ジャパンマーベラス団長の西口勝さん、茶道家の志村宗恭さんの特別個人会員入会、舟越節さん、下田浩之さんの同会退会が承認された。特別個人会員は48人。

賛助会員に日本経済大学地域連携センター、学校法人中村産業学園九州産業大学、株式会社Q T n e tの3団体の入会、蝶屋株式会社の退会が承認された。

第2号議案は役員の選任で、小林文字副会長ほか1監事、4常任理事の新任が承認された。(3ページに

詳報

第3号議案は令和4年度の事業と決算の報告で事務局説明が承認された。創立30周年記念事業のほか、37主催事業、協賛事業28を繰り広げた第30回県民文化祭などの報告が主な内容。

令和5年度の事業計画案、予算案が第4号議案で、第31回ふくおか県民文化祭2023の開催、県民文化大学、県民ふるさと文化講座などを行い、障がい児者や児童生徒の芸術文化活動推進に努めるほか、県文連の組織基盤充実を図る、として、総額3,328万8千円の予算を計上している。

創立30周年の記録



県文連結成大会



第1回県民文化祭文化振興シンポ



ふくおか芸術文化の祭典



世界和太鼓フェスティバル



30周年記念式典の様様

壮年期迎え新たな挑戦を 和と力 県文連交流会



稲田 博子 さん



小田部 黄太 さん



高瀬 昭登 さん



梶島 禅徹 さん



吉田 義徳 さん



吉丸 華城 さん、豊島 栄陽 さん
笠井 栄俊 さん(左から)



宇田川 理事長
あいさつ

「先に創立30周年を祝い、県文連も青年期から壮年期に入ります。新たな挑戦の時。一丸となって前進しましょう」貫正義会長の力強い冒頭挨拶です。

県文連の令和5年度交流会は、7月3日、博多サンヒルズホテル瑞雲の間で、定例理事会に続いて開かれ、理事や特別個人会員ら70人が参加しました。田中正直副会長の開会挨拶を受けて、県和太鼓友輪会の三角泰子さんの軽妙な司会で和やかに進行しました。

貫会長の冒頭挨拶に続いて、

石川純一副会長もメンバーである福岡マンドリンオーケストラの8人がステージに登場。開幕を飾って「学生時代」「峠の我が家」「丘を越えて」など胸にしみる懐かしい曲を演奏して、会場を沸かせました。

続いて、宇田川宣人理事長が「コロナ禍の3年を乗り切った県文連。創立30年の蓄積を継承、発展させるとき。親睦を通して英気を養おう」と乾杯の音頭。歓談、会食に移りました。

そして会場スクリーンには、今年1月31日、西鉄グランドホテルで行った創立30周年記念式典と「30年の歩み」のビデオが上映されました。

そしていよいよカラオケタイム。今回も貫会長の渋い美声「古城」で幕開けです。トップパッ

ターは春日市文化協会の新会長稲田博子さんで曲は『浪花節だよ人生』。これに続いて、県文連きつてののど自慢たちが次々に登壇。9人がたっぷり名曲を聴かせてくれました。合間に、踊り手も飛び入りで登壇、鮮やかな身振り、手振りで会場を沸かせました。

恒例の博多祝いめでたは豊島栄陽特別顧問ら県吟剣詩舞道総連盟トリオがリード、最後に笠井栄俊同連盟会長が「博多祇園山笠に忙殺されている本山道徳先輩に代わりまして」と手一本で締めくくりました。

県文連の和と力を一段と強めた交流会。「このエネルギーでさらに前進しましょう」と林田スマさんの閉会の言葉も弾みま

アトラクション

【カラオケ】貫正義県文連会長「古城」▽稲田博子春日市文化協会会長「浪花節だよ人生」▽竹川克幸県文連調査役、日本経済大学教授「ながい」▽小田部黄太県美術協会理事長「少年時代」▽豊島栄陽県吟剣詩舞道連盟特別顧問「北の酒場」▽高瀬昭登県文連監事、太宰府市文化協会名誉会長「兄弟船」▽梶島禅徹香の会代表理事「芸者ワルツ」▽堀井敏男桂川町文化連合会会長「コモエスタ赤坂」▽吉田義徳古賀市文化協会会長「長い夜」

【博多祝い唄】豊島栄陽県吟剣詩舞道連盟特別顧問、笠井栄俊同連盟会長、吉丸華城同連盟常任理事

第31回ふくおか県民文化祭2023

文化の継承〜心揺さぶる感動をあなたへ〜

統一テーマ

宮崎紀子さんの作品

この秋、全県下で繰り広げる「第31回ふくおか県民文化祭2023」の統一テーマは一般公募270点から大牟田市の主婦、宮崎紀子さんの

作品「文化の継承〜心揺さぶる感動をあなたへ〜」が選ばれた。

宮崎さんは、12月2

日、春日市のクローバープラザで開く県民文化祭表彰式で服部誠太郎県知事（県民文化祭県実行委員会会長）から表彰を受ける。副賞として、九州国立博物館ペア招待券と図書カードが贈られる。

同表彰式では、県地域文化功労者や、県障がい児者美術展受賞者の表彰も行われる予定。

第31回ふくおか県民文化祭2023開催予定

事業区分	開催日	事業名	開催地	会 場
分野別事業 12	合唱	10月8日(日)	第29回ヴォーカルアンサンブル・フェスティバル	中間市 なかまハーモニーホール
	太鼓	11月26日(日)	福岡県和太鼓フェスティバル	篠栗町 クリエイト篠栗
	吟剣詩舞	10月9日(月・祝)	吟剣詩舞フェスティバル	福岡市 福岡市立城南市民センター
	俳句大会	11月17日(金)	俳句大会	大野城市 大野城まどかぴあ
	短歌大会	10月29日(日)	短歌大会	福岡市 福岡商工会議所ビル
	県民茶会	10月22日(日)	県民茶会	糸島市 国登録有形文化財 梶島家住宅
	筑前琵琶	11月5日(日)	第72回筑前琵琶鑑賞会	福岡市 福岡市美術館 ミュージアムホール
	押し花	10月27日(金)～29日(日)	押し花フェスティバル	福岡市 アクロス福岡 交流ギャラリー
	中文連	10月8日(日)	第13回筑豊地区中学校総合文化祭（ステージ部門）	飯塚市 飯塚市文化会館「イヅカコスモスコモン」
	バレエ	11月3日(金・祝)	第15回バレエフェスティバル	福岡市 福岡市民会館 大ホール
	詩人会	11月5日(日)	筑後詩の地脈、水脈をたどる	久留米市 久留米市文化センター 共同ホール
	県展	9月5日(火)～11月26日(日)	第78回福岡県美術展覧会（県展）	福岡市他4市 福岡県立美術館 他4会場
地域別事業 9	福岡市	12月16日(土)～17日(日)	"第18回福岡文化連祭 祭り「芸術舞台2023」"	福岡市 福岡市立南市民センター
	北九州市	11月25日(土)～26日(日)	「猿が翔んだ！～石原宗祐物語～」演劇公演	北九州市 北九州芸術劇場 中劇場
	福岡Iブロック	10月22日(日)	福岡Iブロック 芸術文化のつどい	粕屋町 サンレイクかすやさくらホール
	福岡IIブロック	10月21日(土)～22日(日)	第26回福岡IIブロック「芸術の祭典」in 大野城	大野城市 大野城まどかぴあ
	北九州ブロック	12月3日(日)	北九州ブロック 芸術のつどい	直方市 ユメニティのおがた 大ホール
	北筑後ブロック	10月21日(土)	ふくおか県民文化祭2023 in くるめ	久留米市 久留米シティプラザ 久留米座
	南筑後ブロック	12月9日(土)	南筑後ブロック 芸術フェスティバル	柳川市 柳川市民文化会館「水都やながわ」
	筑豊ブロック	12月3日(日)	筑豊合唱フェスティバル	糸田町 糸田アリーナ
	京築ブロック	11月25日(土)～26日(日)	第24回京築 ふるさと文化祭	苅田町 三原文化会館 苅田町立中央公民館

(県文連所管分)

「文化の継承〜心揺さぶる感動をあなたへ〜」をテーマに、第31回ふくおか県民文化祭2023は9月から年末の12月まで、県下市町で分野別12事業、地域別9事業を繰り広げる。コロナ禍も一段落して、観客増も期待され、協賛事業も加えて約20万

人の参加が見込まれる。今年もトップバッターは9月5日、県立美術館で開幕した県美術展覧会（11月26日まで、ほか4会場）。10月、11月に事業は集中しているが、12月初旬に北九州、筑豊、南筑後の3ブロックが相次ぎ、16、17両日、福岡文

化連盟祭り芸術舞台で締めくくる。県民文化祭期間中、プロの芸術家・集団を学校に迎えて児童生徒たちが直に指導を受ける芸術体験講座も、県内の小中学校、特別支援学校12校で開催予定である。

トップ切って県展開幕

県民文化祭のトップを切って、9月5日、福岡市天神の県立美術館で第78回県美術展覧会が（県展）が開幕した。10月1日までの会期の後、筑後展を皮切りに、県内4地区で巡回展を開く。

県立美術館の会期は、5日から10日までが彫刻・写真、12日から18日までが日本画・工芸・デザイン、20日から24日までが洋画、26日から10月1日までが書で、終える。最終日の1日午後には、福岡リーセントホテルで表彰式が行われる。

この後、10月8日から大牟田文化会館で筑後展、18日から嘉麻市立織田廣喜美術館で筑豊展、11月7日から宗像ユリックスで宗像展、同22日から北九州市立美術館で北九州展が行われる。巡回展の会期はそれぞれ1週間程度。



芸術体験講座



プロのアーティストを学校に派遣して、子どもたちに真の芸術を体験させる「ふくおか県民文化祭2023芸術体験講座」は、今年で19回を数え、県内の小・中学校、特別支援学校12校で行う。

ジャンルは演劇、音楽、邦楽・伝統芸能、総合芸術などで11のプロ集団が参加する。

今回も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のガイドライン



ふれあいコンサート実行委員会(音楽体験)



結実企画(表現活動)

に沿いながら、それぞれのプログラムを工夫して実施する。芸術体験講座は平成17年度から県内の小・中学校児童生徒を対象に行っており、24年度からは特別支援学校も加わった。県内で活躍するプロ芸術家の27集団・個人の登録を受け、学校側の要請に応じて派遣している。この18年間に累計485校で実施したことになる。

令和5年度 芸術体験講座実施校(予定)

市町村名	学校名	講座名	開催日	芸術団体名
北九州市	貫小	伝統芸能	12月5日(火)	福岡市能楽協議会
	箱崎小	伝統芸能	11月22日(水)	和楽団ジャパンマーベラス
福岡市	板付北小	音楽	12月13日(水)	ミュージック コンソート
	堤丘小	総合芸術	12月13日(水)	Officeトゥルース
久留米市	大橋小	伝統芸能	12月5日(火)	山崎北山・宮本直美
直方市	中泉小	演劇	9月21日(木)	劇団さんぽ
	直方南小	伝統芸能	11月7日(火)	子どもに能楽を勧める会
八女市	星野中	演劇	11月21日(火)	You 遊
鞍手町	新延小	音楽	12月11日(月)	福岡ホルンアンサンブル
大刀洗町	大堰小	音楽	9月20日(水)	ミュージック コンソート
県立	築城特別支援	音楽	12月6日(水)	ふれあいコンサート実行委員会
	小郡特別支援	音楽	12月15日(金)	九州打楽器合奏団

(注) 開催日は、変更になる場合があります。

谷川佳枝子さんが筑前五女講義

県民文化大学、11月から



谷川 佳枝子 さん

講義は、毎月第3木曜日午前10時半から正午まで。受講料は1回千円。

著書に『野村望東尼―ひとすじの道をまらば』など。

筑前五女とは、高杉晋作を助けた幕末の歌人で勤王家の望東尼のほか、貝原益軒の妻で漢詩人、文人画の貝原少琴、男装帯刀の漢詩人、原采蘋、画家で書家の二川玉篠、医者、教育者の高場乱の五人です。

今年の県民文化大学は、正田啓佑福岡女子大学名誉教授の「呂坤と『呻吟語』」に続いて、11月16日からは、野村望東尼研究家で知られる谷川佳枝子さんが登壇、「江戸・明治を生きた女性文化人たち～筑前五女を中心に」と題して、五か月にわたって講義します。

県民文化大学、ふるさと文化講座が折り返しへ

アクロス福岡で開催中の県民文化大学と県民ふるさと文化講座は9月21日の講座で折り返し、後半に入ります。

なお来年2月に県民ふるさと文化講座の現地探訪、県民文化大学特別講座を予定しています。

川と水辺から辿るふるさとの文化史

アクロス福岡2階セミナー室
13:00～14:30

日 程	テーマ	講 師
9月21日(木)	筑後川流域の民話	大川市議会議員 川野 栄美子
10月19日(木)	山国川流域の歴史と文化	求菩提資料館館長 栗焼 憲児

呂坤と『呻吟語』

アクロス福岡2階セミナー室
10:30～12:00

テーマ(講師：正田啓佑)
第5回 巻3「応務」 ・呂坤の政治論『実政録』より
第6回 巻3「応務」「養生」 ・呂坤の人生論『去偽齋集』より

江戸・明治を生きた女性文化人たち ～筑前五女を中心に

テーマ(講師：谷川佳枝子)

かいばらとうけん かめいしょうきん 貝原東軒と亀井少琴
はらさいひん 原采蘋
ふたがわきよくじょう 二川玉篠
のむらぼうとうに 野村望東尼
たかばおきむ 高場乱

日 程	テーマ	講 師
11月16日(木)	遠賀川流域の旅と 観光の文化史	日本経済大学教授 竹川 克幸
12月21日(木)	水の回廊 朝倉・秋月： 土木遺産「女男石」と水神信仰	日本経済大学教授 竹川 克幸
令和6年 1月18日(木)	遠賀川流域の古代史と伝承	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫
2月15日(木)	筑後川流域の古代史と伝承①	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫
3月21日(木)	筑後川流域の古代史と伝承②	福岡県文化団体連合会 顧問 河村 哲夫

県民文化大学特別講座 5年ぶり開講

平成30年度が最後の開催となっていた特別講座が来年2月に復活します。講師は、「ミスター吉野ヶ里」と呼ばれる高島忠平さん。

今年4月、佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、弥生時代後期の石棺墓が見つかり、内部の発掘調査が行われました。吉野ヶ里遺跡と今回の発掘調査について、邪馬台国九州説に立つ高島さんが講義を行います。

高島さんは飯塚市出身。熊本大学文学部卒。奈良国立文化財研究所を経て佐賀県教育委員会勤務。吉野ヶ里遺跡保存対策室長や県立名護屋城博物館館長などを歴任。佐賀県芸術文化協会理事長。

講義は、令和6年2月29日(木) 14時～



高島 忠平 さん

15時半 アクロス福岡2階研修室
受講料は千円



地域文化芸術フォーラム & リーダー研修会 9月29日

ふくおかNPOセンター代表 古賀 桃子 さん



ふくおかNPOセンター代表
古賀 桃子 さん

古賀桃子さんが講演

授の鳥丸聡さんです。

この講演に示された問題提起やヒントを受けて、第2部は「つながろう 輪になろう 地域とともに」をテーマに、参加者全員が意見交換と議論を通して、何ができるか、どのように取り組むか、探っていきます。

参加申し込み、問い合わせは県文連事務局へ。

■「令和5年度地域文化芸術フォーラム&リーダー研修会」

9月29日午後1時半～4時半

吉塚合同庁舎3F研修室

事務局092(643)2875

う力を合わせよう」がテーマで、古賀さんは豊富なNPO活動の体験と、そこから得た教訓を語ってくださいましょう。聞き手は、フォーラムで毎回、ファシリテーターを務めている長崎県立大学教



ファシリテーター
長崎県立大学教授
鳥丸 聡 さん

俳句

「青嶺」主宰 岸原清行

「青嶺」は平成十三年、「地平」継承。師系は野見山朱鳥、児玉南草。岸原は現在、県俳句協会顧問、(社)俳人協会評議員を務める。

鷹渡る

鷹渡る眼下に茫と遠賀川
大花野駆けて「天馬」と名を得たる
差し伸べし卑弥呼の腕望の月

「玄海」主宰 大石靖子

「玄海」は平成六年、小島隆保が博多で創刊。師系は高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠の理念を現代の視点で問い続ける。平成二十八年三代目主宰となる。

勢水の神事

これよりは追山笠へ向け走る日々
飾山笠飛びだす絵本めく動き
お櫛田の汗と勢水の神事

「光円」主宰 服部たか子

「光円」は「円」終刊を継ぎ平成二十年七月、田代朝子の下に創刊。二十七年主宰交代。師系は岡部六弥太。自然と人との交響を詠む。

桐の花

麦熟るる熱に目覚めし石棺墓
母いつも語る生家の桐の花
父の日や父の選びし土地に住む

「さわらび」主宰 介弘紀子

昭和二十二年、川上朴史が大牟田で創刊。平成三十年第四代主宰となる。師系は、稲畑汀子、稲畑廣太郎。客観写生、花鳥諷詠を理念とする。(公・社)日本伝統俳句協会理事。

日傘

日傘へと押し寄せて来る海の青
振花に真つ直ぐに降る山の雨
巡礼の宿に今なほ煮る麦茶

「天籟通信」代表 福本弘明

昭和四十年、穴井太が北九州市で創刊。高く遊ぶことを旨とし、自由で個性豊かな集団を目指す月刊同人誌。

神の島

鯛のほかは聞こえず古祭場
航海の女神を待む秋彼岸
銀漢を仰ぐ絶海神の島

「冬野」主宰 持永真理子

「冬野」は、大正十二年創刊。令和三年二月、五代目の主宰継承。師系・高濱虚子、高濱年尾、稲畑汀子、稲畑廣太郎。花鳥諷詠を信条に面白みのある句を目指したい。

夜の秋

夏萩の一夜を揺らし去りしもの
空蟬や観世音寺の鐘いづこ
一点を見詰むる猫や夜の秋

【俳誌名五十音順】

「自鳴鐘」主宰 寺井谷子

主宰者体調不良により作品出品を辞退されました



第31回ふくおか県民文化祭
2023俳句大会
令和5年11月17日(金)
大野城まどかぴあ

短 歌

「酒飲みの」が枕詞の父われか節目節目に届く酒類
父の日に十年ものの古酒一本婿がいちばん我を識りたり

植村 隆雄
「橄欖」

「気をつけて行ってきてね」という妻のこのひとことに生かされている
ひと区画だけの草刈りでやめておく午後からのエネルギー温存のため

内藤 賢司
「歩行」

金色のポンポン振りて踊りいる一年生の靴はねまわる
予備校に通いいる孫に今日もまた返事のこないメールを送る

渡邊 和子
「若竹」

水面から帰宅の人を見上げゐる蓮はちすのかげのお堀のメダカ
近よれば瞳をたてに細くしてわれを疑ふ夏の黒猫

中村 仁彦
「コスモス」

口中に塩あめひとつころばせて山下翔の『meal』を読み
終点の夜明駅まで行かむかなひこぼしラインのバスは水色

西城 燁子
「未来」

来
年
2
月

末永の森コンサート20周年 小泉監督指揮、九響フルオーケストラで



小泉和裕総監督

80回の節目を迎え、小泉和裕総監督指揮のフルオーケストラで記念公演を行う。

20周年記念、第80回末永の森コンサートは2024年（令和6）2月25日（日）午後3時開演。九響と祝祭管弦楽団の共演。前売り券1,000円、当日券1,300円。

末永文化センターは、小泉さんに「九響の練習場を是非」と、懇願されて、「福岡、九州の文化のためならば」と当時、駅弁会社寿軒社長だった末永直行さんが私財を投げ打って1987年に創設された。



鈴木浩二さん

も願っていた。2014年2月の10周年記念コ

九響の末永の家。末永文化センターのホールで開く「末永の森コンサート」が来年2月、20周年、

末永の森コンサートは、開館7年の2004年に始まった。九響合唱団員有志の「地域の皆さんに室内楽を気軽に楽しめる機会を」という発想だったが、同時に楽団員にも「やりたい音楽を自由に演奏して、自らのレベルアップを」という狙いもある。これまで年4回のペースで、毎回150人から200人強の入場者を迎えている。

創立メンバーの一人で、今もこの演奏会の運営を手伝っている元九響チェロ奏者の市博成さんは「九響のキャッチフレーズは『あなたの街のオーケストラ』。末永の森コンサートを通して、皆さんに『わたしの街のオーケストラ』と思ってもらえるようになるのが私たちの希望」と今

ンサートも、やはり小泉指揮のフルオーケストラで行った。その折は、末永さんも健在で「タクトを振る前に、最前列に座っていた末永さんと目が合った。真っ先に会釈すると、にこりと笑ってくれた」と小泉監督は振りかえっている。

その末永さんは、2019年5月14日、肺炎のため死去。96歳だった。追悼コンサートは「小泉君に振ってもらいたいな」という故人の希望もあって、末永文化センターホールで、同年11月24日、やはり小泉監督指揮のフルオーケストラで行われた。

曲目はベートーヴェンの「運命」とバッハの「G線上のアリア」。約300人が、末永さんをしのんだ。

このように、末永文化センターホールで九響がフルオーケストラで演奏するのは過去2回あっただけ。20周年、第80回末永の森コンサートがフルオーケストラ3度目となる。

現在、末永の森コンサート実行委員会代表を務める九響テューバ奏者の鈴木浩二さんは「小泉監督はじめ九響団員の意欲、態勢は十分。演目などはこれからだが、地域の皆さんに愛され親しまれて20年。最高の演

奏会にしたい」と意気込みを語っている。

末永文化センター 年内の演奏会

◆第79回末永の森コンサート

12月9日（土）

「打楽器で『メリークリスマス』」

入場料 当日券1,300円

◆末永の森ミュージゼ・オダコンサート

10月1日（日）

「秋の詩情…チェロトリオの響き」

入場料 前売り券2,000円、

当日券 2,500円

申し込み、問い合わせは末永文化センター092（821）3338へ



2014年の10周年記念コンサートの模様

「ふるさとの音楽史散歩」復刊

福岡労音OBが48年ぶり

ほぼ半世紀前の1975年（昭和50）に出版された『ふるさとの音楽史散歩』が、福岡労音OBの会の手

で復刻出版された。

著者は、元西日本新聞文化部長で福岡文化連盟事務局長だった木村茂



明治の初め、イギリス公使館の音楽隊長フエントンが日本も国歌を作るべきだ、と主張。これを受けて、のち陸軍大臣になった薩摩人大山巖が「なるほど」と示した歌詞が「君が代」。古今和歌集に読み人知らず、で入っている。明治初期、音楽を教えていたのはキリスト教系で長崎の活水女学校、明治21年、分校として設立された福岡女学院くらいだった。

「荒城の月」「花」などの名曲を残して25歳で早世した滝廉太郎。竹田の高等小学校同級生の彫刻家、朝倉文夫が「滝はよく尺八を吹き、式典でオルガンも弾いた」と語っていた。

拾い読み「ふるさとの音楽史散歩」

岡城址の銅像は朝倉の作。

滝と同年の明治12年、熊本県人吉に「故郷の廃家」「旅愁」の作詞者、犬童球溪が誕生。外国の曲とは思えないほど日本化した学校唱歌だ。

明治10年代、「蜩の光」はスコットランド、「蝶々」はスペイン、「庭の千草」はアイルランドの民謡などと、外国曲の日本化が目立つ。

明治39年、開学間もない京都帝大福岡医科大学（現・九大医学部）教授に就いた榊保三郎は春吉の自宅で演奏会を行い、40年12月には楽聖ベートーヴェン誕生日祝賀音楽会も開いた。

年に1、2回、西中洲の公会堂（旧・県公会堂貴賓館）で演奏会を開き、44年には九州帝大（現・九大）フィッハーモニーを誕生させた。大正13年には昭和天皇ご成婚奉祝音楽会を

さん（1924～80）。75年、福岡労音の創立20周年で記念誌として執筆、発行された。

今年、OBの集まり「福岡労音七代会」でリニューアル出版が決まり、永年、福岡青年音楽家協会や緑のコンサートなどの音楽活動に携わってきた青沼謙一さんが編集を担当した。

開き「第九」第4楽章を演奏。コーラスには西南学院や中学、女学校からも参加、奉祝歌詞を歌った。

明治後期には口語文歌詞の歌が主流に。佐世保海兵団音楽隊長、田中穂積作曲の「美しき天然」が大ヒットした。

そのころ福岡には、博多音楽隊、手風琴（アコーディオン）音楽隊ができ、37、38年の日露戦争時には福岡市音楽隊が出征者を送った。幸徳秋水の大逆事件を機に集会・行列取り締まり強化で楽隊の全盛は続かなかった。

明治末期は鹿児島島の薩摩琵琶、福岡の筑前琵琶が黄金時代だった。大正期、福岡市の簗子小学校は教師大橋利康がいて、父兄を口説いてグランドピアノを設置、九州で有数の音楽モデルスクールになった。先

『ふるさとの音楽史散歩』は、グレゴリオ聖歌に初めて接した1549年のザビエル来日から説き起こし、軍楽と讃美歌、学校唱歌などをたどり、九大フイル、西南グリー、緑のコンサート、福岡労音の活動などを綴っている。

石風社刊。定価1,000円（税別）。

生たち編成のオーケストラが全県的に発展して、大正13年には日本成楽団という管弦楽団になり、朝鮮半島まで演奏旅行した。

大正10年、西公園で開かれた「こども博覧会」がきっかけで福岡に歌劇が生まれた。井上胡蝶が、娘の富貴子ら少女十数人で舞踊劇を上演して好評を博した。翌年には須崎に博多少女歌劇養成会、12年には歌劇団青嵐座が発足する。

中心スターの富貴子は結婚して鶴田姓に。その娘4人が戦後、バレエ界で大きく開花した。※美保子、溢子、貴美子、睦子の4姉妹で、その門下から梓みちよ、小柳ルミ子らのスターが輩出している。

昭和3、13年、福岡女学院にソプラノの辻輝子がいた。のちの山田耕筈夫人。教え子にソプラノの三宅春恵、ピアノリスト佐藤博子（のち末永）らがいた。

※現県文連顧問の大野美保子さん

酒席から生まれた若手のコラボ舞台

福岡文化連盟青年部の「金印」、12月に公演予定

県文連の貴重な紙面を預かりながら、少しふざけた写真ですみません。酒食を楽しんでいる面々は福岡文化連盟の若手たち。能楽師に詩人、ピアニスト、美術家とジャンルもさまざま。おおむね50歳以下を対象にした「青年部」に所属するが、これまではジャンルの違いもあり一緒に集まる機会は皆無だった。「それはもったいない」と、昨年から月1ペースで有志が集まるようになったのがコレ。



福岡文化連盟青年部の面々

だんだんと打ち解けて、気心も知れるようになってくると、そこはさすがにアーティストたち。「せつかくこれだけ多彩な顔ぶれが揃っているのだから、なんか一緒にコラボしようよ」という話が自然と持ち上がった。その第一弾として企画したのが、古代から大陸へのゲートウェイとして栄えてきた福岡を象徴する「金印」をテーマにした創作舞台だ。

金印と聞いて、皆さん真っ先に思い浮かべるのは福岡市博物館にある国宝の金印（漢委奴国王印）だろう。中国の史書「後漢書」に建武中元2（西暦57）年、後漢の光武帝が奴国王に印綬を与えたとあり、まさにこの金印がそれだと考えられている。江戸時代、志賀島で農民の甚兵衛が偶然発見した。

日中を結ぶ金印は実はもう一つ存在する。魏の皇帝が景初3（239）年、邪馬台国の女王卑弥呼の使いに授けた金印（親魏倭王印）で、こちら

は今も発見されていない。もし見つければ、古代史最大の謎とされる邪馬台国所在地論争にも決定的な影響を与えるだろう。

青年部の舞台は史書の記述を踏まえつつ、二つの金印を結ぶ物語を幻想的に紡ぐ。脚本は狂言師の吉住講さん。印鈕作家が作る「金印」を舞台に据え、奴国王や光武帝、卑弥呼、金印の守り手の大綿津見神らに扮した能楽師や日本舞踊家が舞い、詩人が自作の詩を吟じ、ピアニストや筑前琵琶奏者がオリジナルの旋律を奏でる。現代の甚兵衛に相当する考古学者役も登場するが、結末は見てのお楽しみ。

今年暮れに開催する福岡文化連盟主催「芸術舞台2023」の演目の一つとして公演予定で、本番に向けた稽古も始まった。多くのジャンルをまたぐこの手のコラボレーションは言うは易く行うは難し。特に福岡文化連盟のような各ジャンルの「師匠」や「先

生」が個人で参加する組織ならではの難しさもあるわけだが、今回は若い世代の柔軟さで乗り越えてくれると信じている。文化団体はどれも会員の高齢化が悩みの種だろう。後継者育成を考えると、若手の活躍の場を設けるのもまたわれわれの大事な使命だと思う。

「芸術舞台2023」は2日制で、初日は12月16日午前11時から午後5時まで。青年部のほか日舞、能、筑前琵琶、民舞、バレエ、フラダンス、吟剣詩舞などが出演。釜山からの友情参加もある。17日は午後3時から5時半まで、文連としては久しぶりの創作演劇「筑前戦国秘話」（仮題）を公演予定。入場料は各日4,000円。

（福岡文化連盟事務局長・北里晋）



本番に向けた立ち稽古

快調！ 天神文化塾

福岡文化連盟 分野を超えた文化の コラボレーション

福岡の文化最前線で活躍する文化人・アーティスト3人が登場し、世代・ジャンルを超えて存分に語りあう「天神文化塾」がスタートして1年半。快調な展開を見せている。

多士済々の文化人を擁する福岡文化連盟の企画で、分野を超えた文化のコラボレーション。毎回、コーディネーターは歌人の桜川冴子さんが務め、映像や実演も交え、3人の出演者から豊富な話題を縦横に引き出している。

毎回テーマを設定し、それに応じた出演者を選んでいる。この後、「活字愛



の世界、「博多らしさとは」、「舞台の魅力」、「創作の舞台裏」、「特別コンサート」と続き、来年3月は「カウンター・カルチャー」で年度最終講になる。

毎月第4木曜日午後6時半。中央区天神1丁目4-2エルガラオオフィス6F、久留米大学福岡サテライトで。受講料1,000円。福岡文連会員は無料。



「ソロと合奏」

8月24日の「天神文化塾」は「ソロと合奏」がテーマ。元九響ティンパニー奏者で指揮者の永野哲さん、TNCテレビ西日本勤務で市民吹奏楽団指揮者の武富浩一朗さん、観世流太鼓方能楽師の田中達さんの3人が登場。

太宰府、時の記念日の行事

今年も盛況、250人

3年ぶりに昨年復活した太宰府市民遺産「太宰府における時の記念日の行事」は、今年も6月10日、定刻の午前6時10分に、政庁跡に子どもたちを先頭に続々と人が集まって250人に膨れ上がる大盛況裏に繰り広げられた。

みんなが揃ったところで、現在の「水城小学校校歌」斉唱で開幕。詩吟日本吟詠会の大田君陽氏らが「大野山」「水城の里や」などを披露した。続いて「時の記念日の歌」「水城村の地勢」などを合唱。中でも

「水を湛えて異国の寇に備えいにしえの水城の堤」

と、元寇の歴史を歌い込んだ、戦前の「水城小学校校歌」は参加者に強いインパクトを感じさせた。

最後に、太宰府市文化協会会長の日本舞踊家、米原峰子さんらが市民遺産「大宰府を歌う」より「都府楼跡」を舞って終えた。

太宰府の時の記念日行事は、月山



校歌を歌う水城小学校児童

水城小学校は来年、創立150周年を迎える。

その後、会長川口豊治さん、事務局長高瀬昭登さんの、水城小同級生コンビの市民ボランティア組織「辰山会」が奮闘、地域住民の協力を得て、ここまで復活した。

（旧名「辰山」に漏刻（水時計）があったと伝えられることから昭和12年（1937）水城尋常高等小学校（現・水城小学校）で、行った記録がある。以来、水城小学校を中心に続けられていたが、高度経済成長期など衰退していた時期もあった。

『岸壁の母』で有名な終戦後の引揚げ港、京都府舞鶴市。日清・日露戦争からの軍都から変貌を遂げる舞鶴で、明治・大正・昭和と地域の発展に貢献した、と市民の尊敬を集めた筑豊男児がいた。

この夏、直方市出身の海運王、飯野寅吉（1865-1949）の銅像姿に会ってきた。（古賀透）



飯野寅吉翁銅像

8月下旬、お盆参りもあって、舞鶴に住む姉を訪ねた。確か5年ぶりの再会で、積もる話はきりがない。一段落して、「飯野寅吉という人の銅像があると聞いたが」と切り出すと、驚いたことに拍子抜けするほど反応がいい。

なんと、子育てのころ、ベビーカーでよく連れて行った公園にある、と言う。歩いて15分くらいとか。

銅像は、市内中心部の交通の要衝、



飯野寅吉

歩道橋がかぶさる三差路に面した「中舞鶴公園」にそび

えていた。道路を挟んだ丘、共栄公園は桜の名所とか。台座も含めて高さ3メートル余。飯野寅吉は洋服姿で立っている。

平成2年3月、舞鶴市の建立で「飯野寅吉翁像」とある。「飯野寅吉翁は、

舞鶴復興の恩人

飯野寅吉翁に会ってきました

直方出身の熱血漢

慶応元年、現在の福岡県直方市で生まれました」で始まる碑文も、敬称は「翁」で一貫している。

要約すると、若くして実業家を志し、明治32年（1899）中舞鶴に飯野商会を設立。石炭販売と港運業が主だったが、34年に舞鶴鎮守府が開庁すると、事業を拡げた、とある。

要するに、軍依存で業績を伸ばしたわけだが、碑文はさらりと書いて、昭和20年（1945）の敗戦で「海

軍のまち舞鶴も大きな打撃を受け」だが「この時、翁は荒廃した舞鶴海軍工廠跡を、民間工場として引き受け、造船業を通して本市の復興に大いに尽力」された、とある。

戦後の舞鶴の復興は、軍都からいかに脱却、転換するかにあったが、寅吉の事業はその一翼を担っていたのだ。この間、飯野商会は飯野海運と改称している。

そして役場の新築や学校、公共施

設などに多額の寄付もした、とある。

「石炭商から身を起こし、篤い人情と誠実な人柄」で「昭和24年、舞鶴の地で85年の輝かしい生涯の幕を閉じました」。

実は、飯野寅吉を初めて知ったのは県文連刊ふるさと文化誌「直方まち物語」に直方郷土研究会会長の牛嶋英俊さんが書いたコラム「飯野海運の創立者・飯野寅吉」だった。それによると…

寅吉は、早く両親を亡くして、若松の港湾会社で働き、神戸に移って26歳で石炭商として独立した。

日清戦争後、軍艦など船舶燃料として石炭需要増を見込んで舞鶴に移り、鎮守府に筑豊の石炭を納めるなど、「舞鶴軍需を一手に」した、という。

昭和4年には海軍の要請でタンカーを建造し、故郷直方の鷹取山にちなんで「第1鷹取丸」と名付けた、という。若くして離れただけに熱い故郷への思いを、タンカーの名に込めたのだろう。

飯野海運は、寅吉が亡くなる4年前の昭和21年、東京内幸町に飯野ビルディングを建て本社を移している。

飯野ビルなら早くから知っていた。霞が関の官庁街の一角ではあり、西日本新聞記者として3度東京勤務した折、ビル地下の喫茶やレストランはよく出入りしたし、イイノホールも何度か、イベントで入場したことがある。

この夏、筑豊生まれの熱血漢、飯野寅吉がにわかに身近な存在に浮かび上がった。

野見山暁治さん「蘇った光の中で」

93歳で白内障手術

視力回復、感動の絵贈る



野見山 暁治さん

6月に102歳で亡くなった暁治さんは、10年前、失明の恐怖を覚えながら白内障の手術を受けて回復。そのお礼に、喜びをにじませた花の絵を眼科医に贈っていた。

絵は、福岡市藤崎の福田眼科病院（江島哲至院長）3階の病室に額に入って飾られている。色紙に、鉢植えに2輪の赤い花の水彩画。もう1枚の色紙には、真ん中に「蘇った光の中で」と、目の回復を高らかに謳う文字。

その右には「福田先生 野見山」左には「赤」と1文字。目が回復後、真っ先に飛び込んだのが、お見舞いで病室に飾られていた赤い花だったのだろう。

平成25年（2013）のこと。前院長で理事長に退いていた福田量さんに、ある内科医から、野見

山さんの診療を、と紹介があった。「うちでお受けして、入院してもらった。手術は江島院長が担当して経過は順調。1週間ほどの入院で2月9日に退院されました」と、福田さん。

この時、野見山さんは93歳。福田さんはこの時、82歳だったが「野見山さんは若々しくて、私と同年くらいかな、と思った。やっぱり名をなす人は違うな、とつくづく思いましたよ」。

退院後、しばらくして届いたのが、丁重な礼状と、この花の絵。「野見山さんは絵描きさんだけに、失明しはしないか、不安、恐怖があったのでは。だから、ことさらに喜びが大きかったのでしょう」野見山さんは、この手術後も精力的に創作を続け、天寿を全うした。



「蘇った光の中で」



絵を抱く福田さん

福岡マンドリンオーケストラ

『県文連ふくおか』本号の表紙を飾ったのは福岡マンドリンオーケストラ団員の皆さんたち。

福岡マンドリンオーケストラは愛称「福マン」。1966年にマンドリン愛好者たちが集結して「福岡マンドリン合奏団」を創設した。3年後に現在名に改称している。

現在の団員は老若男女約50人で、毎週水曜日、福岡市の千代音楽演劇練習場パピオビールームで練習を行っている。

慰問演奏会やさまざまなイベントもやるが、5月の九州マンドリンフェスティバル、7月の福岡マンドリンフェスティバルにそれぞれ参加するほか、毎年11月には定期演奏会を行っている。

今年も11月に、もちパレスで第

56回定期演奏会を予定しており、当面、最大の目標である。

表紙の写真には、右端にコントラバスを演奏する県文連副会長、石川純一さんの姿が見える。コントラバスやギターの奏者も構成員でありうるとかで、現に石川さんは40年来のレッキとした団員である。



ふるさと文化誌第12号 「大野城まち物語」（仮題）

令和6年3月発行予定 鋭意編集集中

令和5年度九州・沖縄文化団体連絡会議

7月27日、28日 4年ぶりに長崎で開催

令和5年度の九州・沖縄文化団体連絡会議が7月27、28の両日、長崎市のホテルセントヒル長崎で開かれた。

同会議は、九州・沖縄における総合芸術文化団体の交流を図り、地方芸術文化の振興に寄与することを目的として、平成11年度に始まり、沖縄県での21回目以来新型



会議の様様

コロナ禍による3年間の中止を経て、4年ぶりに開催された。

会議開催を担った長崎県文化団体協議会の前川謙介副会長（県文化観光国際部長）・河野英雄副会長をはじめ、福岡県文連の宇田川宣人理事長、九州・沖縄各県の文化団体代表・事務局員の20人が参加して、各県の芸術文化活動の課題と方策について、活発な意見交換がなされた。

主な議題としては、各県文化協会の組織体制、協会会員の状況と会員に対する取り組み及び支援、県団体の法人化など、各県が直面している重要な課題が取り上げられた。

文化協会の組織体制については、8県のうち3県が法人化し、熊本県のように4つの文化団体一つの事務局で運営しているケースもある。ほとんどの職員を県職員が兼務している県や専任の職員がいない県もあるなど、各県の相違が大きい。

併にによる会員数減少に加え、高齢化等で会の運営が困難となり退会に至る団体が増えていることなどが報告された。現状への対策として、助成事業の実施や会報等による情報提供・広報活動、会員相互の親睦と情報交換の場の提供などの取り組みが披露され、また具体的な対策を話し合う意見交換の場が必要との意見もあった。

県団体の法人化については、法人化している県から、税制上の優遇や社会的信用の増大といったメリットはあるが、事務の煩雑、立ち入り検査等への対応などデメリットも多いとの報告があった。過去に法人化を検討したが、メリットが少ないと判断し現状のままになっているとの他の県からの意見もあった。

また、長崎県美術館では、須磨弥吉郎が駐スペイン特命全権公使時代に収集したコレクションを基礎にしたスペイン美術のほか長崎ゆかりの美術などを見学した。

このように、2日間に渡り、大変すばらしいもてなしをいただき、長崎県文化団体協議会の皆さんの心意気に一同感動した。来年度は、大分県において開催される。



復元された長崎奉行所

吉塚だより

断捨離、まして終活というわけではないが、このところ本や雑誌、ビデオなどの整理と処分に取りかかっている。日々の生活の漕のごとく積みあがった雑多な品々に、居住スペースを侵食された家族の怨嗟は高まるばかりだが、それなりに愛着もある品々で遅々として進まない。そのなかに家内の父の形見分けとしていただいたフィルムカメラがある。

ちょうど桜の季節でもあり思い立ってまずはフィルムを買いに出かけたが、近所では入手できず、専門店で足を延ばすと棚に申し訳程度に並べられたフィルムの値段がとんでもないことになっている。かなり躊躇したが思い切って購入し、桜満開の公園に出かけた。スマホを花に向けている人は多いが、古風なカメラを構えている物好きは見かけない。フィルムの値段と36枚撮りということもあり、デジタルと違ってシャッターを切るのにひどく慎重になる。寄った

り離れたり、残り枚数を気にしつつ

「フィルムは 生きているか？」

おずおずとシャッターを切る。そうそう、昔はこんなだった。そんな感慨を抱きながらあつという間に一本撮りきってしまった。

現像はまだ普通にやっていたが、薬剤のストックがなくなると、この先どうなるかわからないという。また当たり前のようにフィルムをスキャンしますかと問われた。聞くと現像後、デジタルに取り込んで、フィルム自体は不要と捨てていく人が結構いるとのこと。ウーム、結局デジタルにするなら最初からデジタルかスマホでいいように思うが。

一部の若い人の間ではフィルムで撮ることが流行っており、中古カメラもいい値で売れているらしい。しかしこれだけ費用が掛かるのであれば若い人は維持できず、ブームはいずれ鎮静化するだろう。文化を支える製品、技術技能も栄枯盛衰いずれ終活の荒波からは逃げられないということか。

(江崎)

福岡県文化団体連合会

平成4年(1992)11月、県内で活動する地域別の文化団体67、分野別25の計92団体が参加して結成。16年秋には、県と協力して第19回国民文化祭ふくおか2004(愛称「とびうめ国文祭」)を推進、大成功を収めた。創立以来、毎年、県民文化祭を開催するほか、県民文化大学講座など独自の文化企画を展開している。現在は地域別63団体、分野別25団体、特別個人会員47名が加盟。末端会員は推定20万人。

県文連ふくおか 73号

発行 令和5年9月

福岡県文化団体連合会

専務理事 江崎 雅彦

広報編集委員 古賀 透

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50

TEL 092 (643) 2875

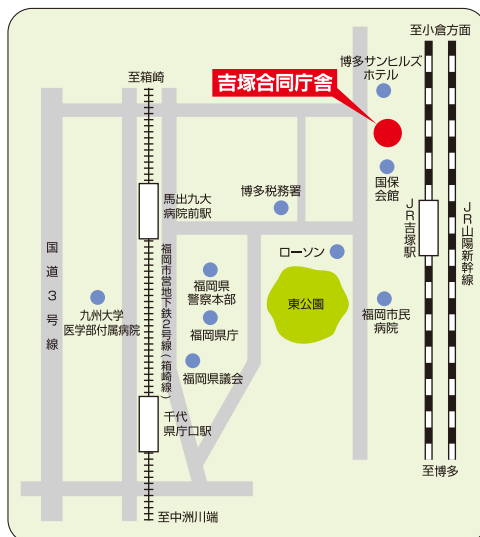
FAX 092 (643) 2876

印刷 協文社印刷株式会社

〒819-0001 福岡市西区小戸4丁目24-5

TEL 092 (891) 0411(代)

FAX 092 (891) 7288





ふくおかの文化をはつらつと

福岡県文化団体連合会

Fukuoka Prefecture Cultural Group Federation



ホームページは「県文連」で検索

県文連



賛助会員の紹介

企業 団体会員

(公財)アクロス福岡
 アジア美術家連盟 日本委員会
 飯塚信用金庫
 一番食品(株)
 英進館(株)
 (株)エルテックス・ヨシダ
 (有)海鳥社
 九州電力(株)
 (公財)九州交響楽団
 (株)九電工
 (株)Q T net
 久留米運送(株)
 (公財)末永文化振興財団
 西部ガスホールディングス(株)
 (株)如水庵
 人生史サークル黄櫨の会
 (学)中村産業学園 九州産業大学
 (株)西日本シティ銀行
 西日本鉄道(株)

個人会員

西日本プラント工業(株)
 日本経済大学 地域連携センター
 (公財)日本習字教育財団福岡事務所
 (株)日本旅行九州法人営業部
 (株)ひよ子
 (株)ピアノターミナル・ナカムラ
 福岡県教育庁部課長会
 福岡県教育庁参事・補佐会
 (株)福岡銀行
 福岡県信用保証協会
 ふくおかアジア文化塾
 (株)福岡こどもクラブ
 (NPO)文化ボランティア
 とびうめの会
 (株)山口油屋福太郎
 (50音順)
 唐川 茂樹
 岡 征二
 王寺陽一郎

賛助会員の募集

福岡県文化団体連合会では、福岡県の文化振興並びに文化活動を側面から支援していただく企業及び個人の賛助会員（企業・団体1口：1万円、個人1口：5千円）を募集しています。この機会に、賛助会員として加入していただき、新たな県民文化創造へ継続的にご支援、ご参加くださいますようお願いいたします。

賛助会員に
対する特典

- 1 会報「県文連ふくおか」の送付(年2回)
- 2 会報とホームページへの賛助会員の掲載と紹介
- 3 その他、県文連主催行事、関係情報の提供

〈加入方法〉

福岡県文化団体連合会事務局

TEL.092-643-2875に連絡ください。

追って手続き書類をお送りしますのでよろしくお願いいたします。